



地域連携講座  
東海大学の地域貢献活動  
東海大学 トコラボ  
プログラム

satellite  
news

文部科学省  
地(知)の拠点

# サテライト通信

vol.15

2016年7月号

東海大学サテライトオフィス地域交流センター

## 8月 地域連携講座 のご案内

To-Collabo  
プログラム

### ◆「昔の本をつくろう！ ～日本伝統の和装本にチャレンジ！～」

定員 **16** 名

【開講日時】 2016年8月4日(木)・8月5日(金) 13:30～15:00  
※各日とも同じ内容です。

【講師】 東海大学中央図書館職員

【内容】 日本伝統の和装本について、どのようなつくりになっているのか、実際に糸で綴じる本作りを体験することができます。また、当日は図書館が所蔵する和装本を展示いたしますので、手に取ってご覧いただけます。夏休みの思い出に、和装本作りにチャレンジしてみませんか♪

【受講対象者】 小学生(※針を使用しますので、低学年生は保護者の同伴をお願いします)

【材料費】 500円

### ◆「日本はどこに向かっているのか？～地域・在宅医療の現場から～」

定員 **30** 名

【開講日時】 2016年8月6日(土) 14:00～15:30

【講師】 山本 五十年 (湘南真田クリニック院長・東海大学客員准教授)

【内容】 日本は少子・超高齢化社会に突入し、待ったなしの状態です。このままでは、どうなっていくのか、不安が一杯です。今回、地域・在宅医療の現場の視点で、日本はどこに向かっているのか？何を為すべきか、一緒に考えてみたいと思います。

### ◆シリーズ「ロシアの人々と社会」第3回：ロシア人にとって宗教とは

定員 **20** 名

【開講日時】 2016年8月27日(土) 13:30～15:00

【講師】 山下 万里子 (東海大学名誉教授・日本対外文化協会理事)

【内容】 ロシアの宗教はキリスト教のひとつであるロシア正教です。世界の宗教界は今年画期的な出来事を経験しました。カトリックの総本山フランススコローマ法王とロシア正教会のキリル総主教が1000年という時を経て会見しました。カトリックとロシア正教会を統一するという問題は昔から持ち上がっており、キリストの捉え方そのものに大きな隔たりがあり、解決していません。多民族国家のロシアは宗派もイスラム教、ユダヤ教、仏教など数多くあります。ここではロシア人に的を絞って、革命前、宗教が禁止されたソ連時代、現在とそれぞれの時代ロシア人はどのように神を信じ、神に祈ったかを考えます。

●次回以降の講座予定(各回毎に受講申し込みが必要です)

第4回(9月17日) ロシア文学 ～ノーベル文学賞受賞作家～

第5回(11月12日) ロシア人の習慣 ～日常生活 今・昔



トコラボ Facebook



活動情報配信中！  
ぜひ「いいね！」してください！

アクセス



お申込はお電話で

**0463-78-5188**

駅から  
徒歩  
1分

受講料  
無料

定員  
制

要  
電話  
申込

受講には各回のお申し込みが必要です。  
サテライトオフィスまでお電話ください。【申込み受付時間】9:00～17:00  
(※日曜・祝日は原則休業のため申し込み受付はしていません)  
申し込み期限は開講日前日16:00までとなり、  
定員になり次第募集を終了させていただきます。  
受講者は秦野・平塚・伊勢原・大磯に在住・在勤・在学者に  
限らせていただきます。

東海大学サテライトオフィス  
地域交流センター

〒257-0003  
神奈川県秦野市南矢名 1-3-5  
TEL 0463-78-5188  
FAX 0463-78-5189  
<https://coc.u-tokai.ac.jp/>

## 定期映画上映会 「学前夕暮れシアター」&関連作品・映像の展示

第3回 上映作品「遠い火 | 山の終戦」 映画上映前後に作家とのトークショーがございます！

開催日時

2016年8月25日(木) 17:30~20:00頃終了予定

展示開催期間

2016年8月23日(火)~8月25日(木)10:00~17:00  
※8月23日(火)は13:00から

主催

東海大学文学部広報メディア学科水島研究室  
 ※ To-Collabo(トコラボ)プログラム 2016年度地域志向教育研究経費採択課題  
 「学前夕暮れシアター」(定期映画上映会)の企画・運営の活動の一環です。

内容

映画は好きですか？ 映画館に思い出はありますか？

かつてはそこここにあった「町の映画館」。今はシネコンなどの大型施設に押され、いつの間にか消えてしまいました。

—「この町にも映画館が欲しいね」—

このプロジェクトは、そんな何気ない一言がきっかけで、しかも世界のどこにもない、東海大学駅前ならではの、地域に開かれた、誰でも気楽にのぞける映画館を作ろう！と、文学部広報メディア学科・水島教授とゼミ生たちによる「映画を囲んで語り合う」広場づくりとして、はじめたのです。

さて、8月の第3回上映作品は、東日本大震災を機に陸前高田市を拠点に活動を行うアートユニット、小森はるか(映像作家)+瀬尾夏美(画家・作家)の作品『遠い火 | 山の終戦』。映画上映に加えて、作品展示(8月23日~8月25日)も行われます。(上映会は8月25日です。)また、上映会当日は、小森はるか氏と瀬尾夏美氏をお迎えしてのトークショーも予定されております。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



ご紹介

小森はるか+瀬尾夏美

Komori Haruka + Seo Natsumi

(http://komori-seo.main.jp/blog/aboutus/より)



映像作家の小森はるかと画家で作家の瀬尾夏美によるアートユニット。2011年3月末、ふたりでレンタカーを借りてボランティア活動へ出発。そこで出会った人の言葉をきっかけに、津波の襲った地域をすべて見てまわろうと決断し、ビデオ、写真、言葉、スケッチ等を用いた記録活動をはじめ。同時にtwitterやブログで現地の状況発信を開始。その後約一年間は、月に1度沿岸部に通いながら、関東や関西の各地で報告会を多数企画。2012年4月、岩手県陸前高田市に拠点を移す。地元の商店(小森はそば屋、瀬尾は写真館)で働きながら、風景と人びとのことばの記録をテーマに制作をはじめ。また、陸前高田を中心として、市民と協同するワークショップや対話の場を月に一度のペースで開催している。2014年から「Art Action UK Residency Program」Husk Gallery / ロンドン(2014)や「記録と想起-イメージの家を歩く-」せんだいメディアテーク / 仙台(2014)など、レジデンスや展覧会にも多く参加。2015年4月、仙台に拠点を移し、東北で活動する仲間とともに、記録を受け渡すための表現を実践的につくっていく組織、一般社団法人NOOK(のおく)を立ち上げる。巡回展「波のした、土のうえ」を、陸前高田を皮切りにし、盛岡・神戸・福島・宮城など日本各地に自主企画で巡回中。

小森はるか

映像作家。1989年静岡県生まれ。  
 東京芸術大学美術学部先端芸術表現科卒業、同大学院修士課程修了。

瀬尾夏美

画家、作家。1988年東京生まれ。  
 東京芸術大学美術学部先端芸術表現科卒業、同大学院修士課程油画専攻修了。

